コミュニケーション教育に資するグラフィックツールに関する研究

教育・ビジネス分野における「伝版」使用の事例的研究

西道広美¹・○吉田純子¹・西道 実²

(¹特定非営利活動法人楽しく伝える・キャリアをつくるネットワーク/株式会社伝耕・²奈良大学社会学部)

キーワード: インフォグラフィックス、コミュニケーション、ファシリテーション

Graphic materials designed for effective communication

Hiromi SAIDO¹, Junko YOSHIDA¹ and Minoru SAIDO²

(¹NPO Rakuden, DENKO Corp., ²Faculty of Sociology, Nara Univ.)

Key Words: infographics, communication, facilitation

目 的

コミュニケーションの前提となる暗黙知や文脈を共有しにくい現代にあつては、自他の相違を理解した上でコミュニケーションする能力が従来にも増して求められる。と同時にそのような能力を高める方法を開発する重要性が増している。

では「コミュニケーション能力とは何か」。教育やビジネスの現場において、多くの「コミュニケーションの成功」もしくは「不調」に遭遇すると、コミュニケーション能力とは次の3つのプロセス—1) 自他の相違を理解する前段階として今ここにある自分を理解する力(自分自身とのコミュニケーション)、2) 自他の違いを認識し、理解しようとする力、3) 自他の違いを前提として、相手への伝わりやすさを構成する力を踏んでコミュニケーションできる力であると考えられる。

この「コミュニケーション能力」を伸ばすためには、伝えたい内容を「ひきだして(自分自身を深耕する)」、「ひもとい(自他の違いを分析する)」、「くみたて(伝わりやすさを構成する)」必要がある。「伝版」は、この作業を「楽(ラク)」に楽しく取り組むためにデザインされたグラフィックであり、情報の伝わりやすさを意図して表現されたインフォグラフィックスと、仮の分析的フレームを付与するメタファー(文脈依存的でない自然のモチーフ)とを組み合わせることによって開発されている。われわれは、この「伝版」を、教育やビジネスの分野で数多く用いた事例を有するため、このツールがコミュニケーション教育に効果的であることを事例的に検討した。

方 法

「伝版」を以下のような組織・場面で用い、口頭および事後アンケートの形式で、参加者と実施者の双方から、「伝版」の効果に関するフィードバックを得た。

- 1) 教育機関(小中学校): 特別授業(総合学習・道徳)
- 2) 教育機関(大学): キャリア教育(授業・セミナー)
- 3) 一般企業: 新商品開発ワークショップ
- 4) 一般企業: ビジネス開発ワークショップ
- 5) 一般企業: キャリア開発セミナー
- 6) 地方自治体: キャリア開発セミナー

調査対象者の人数は、2044人(2014年1月現在)であった

結 果

「伝版」の使用に関するフィードバックのコメントを整理した結果、その効果として、以下の6点が指摘された。

- 1) 「考え」を「はじめる」ことを促進する

考えることをはじめにくいのは、その端緒を見つけにくいことに起因する。「伝版」は、自然のモチーフをメタファーにしたフレームを与えることによって、そのフレームにそって無理なく考えはじめる(自分自身とコミュニケーションする)

きっかけを提供する。

- 2) 作業に楽しく取り組める

「伝版」は、難しさを感じたり、深まりにくかったりする「自己探索」のプロセスを、見ているだけでも楽しくてきれいな自然のモチーフからなるグラフィックシートにより、「より楽しく」「より楽に」進めやすくする。つまり、「自分」をひきだし、ひもとく作業を促進する。

- 3) 自己肯定感を醸造する

自分の中に浮かんだものを「伝版」に書き出して確認することで、これまでや今の自分を祝福できるようになり、自己肯定感が育まれる。

- 4) 次のアクションを動機づける

「伝版」を書き終えると、仕上がり感が小さな達成感となり、次の課題(ビジョンづくり)への動機づけとコミットメントが高まる。

- 5) コミュニケーションを円滑にする

「伝版」に、書き込むことで、自分自身との対話を促進するだけではなく、書き込まれた伝版を紙芝居のように用い他者に説明することで、書き込んだ内容は話しやすくなり、結果、他者との交流が短時間で活発になる。

- 6) (チーム) 他者からの学びをスムーズにする

同じフレームなのに、異なる内容が書かれた他者の「伝版」に触れることにより、他者との交流が深化し、学びが起動しやすく、その結果、自己探索もいっそう深まりやすい。

考 察

「伝版」の使用は、自然のモチーフをメタファーとした枠組みを与えるため、思考および自他との相互作用を促進することに一定の効果が認められた。

ここで述べるまでもないが、「伝版」は思考や相互作用のすべてに枠組みを与えられるわけではなく、また伝版を使えば自己理解や他者理解および、相互理解と相互作用が完遂するというものでもない。

しかしながら、「伝版」を用いることによって理解や相互作用が促進され、伝版使用者が一定の達成感を得ることによって、さらなる理解や相互作用への、プラス方向の動機づけに功を奏することが、伝版を使用することの大きな効果だと思われる。

「伝版」は、自己についての3つのプロセス(ひきだし、ひもとく、くみたて)を促進し、さらにそれを他者と共有し、思考を深めることを援助するツールとして、これまでキャリア開発・授業支援・商品開発等々、教育やビジネスの分野で広く使われてきた。今回、報告した結果を踏まえ、さらにこれまでの事例を整理・検討し、「伝版」の意義・活用方法・成果についてさらなる研究を進めていきたい。